

## 令和3年度 第3回国分寺市環境審議会議事要約

日 時 : 令和4年3月15日(火) 午前10時～正午  
会 場 : 市役所 プレハブ会議室第1

### ○会議次第

#### 1. 開会

#### 2. 資料確認

資料6 : 令和3年度環境報告書(案)に関する意見(回答)

資料6-1 : 令和3年度環境報告書(案)に関する意見(資料)

資料7 : 令和3年度環境報告書から見た市の環境施策に関する意見について(案)

資料8 : 環境基本計画等の課題と方向性について(意見等)

#### 3. 議題

(1) 令和3年度環境報告書(令和2年度実績報告) (案)に関する意見について

(2) 令和3年度環境報告書からみた, 市の環境施策に関する意見について

— 休憩(室内換気 10分) —

(3) 環境基本計画等の課題と方向性について

#### 4. その他

#### 5. 閉会

出席委員 : 中西由美子会長, 佐藤敬臣副会長, 山岸信雄委員, 和田淳委員, 野澤淳史委員,  
六車貴美子委員, 市川修委員, 藤井達男委員

出席委員 : 8人

欠席委員 : 3人 青山温彦委員, 渡邊博史委員, 荒井雄一委員

傍聴者 : なし

事務局 : まちづくり部まちづくり計画課 5人(部長, 課長, 係長, 担当者, 応援職員)

## 1. 開会

中西会長: 令和3年度第3回審議会を始めます。前半に「令和3年度環境報告書(令和2年度実績報告)(案)に関するご意見とその対応」についてと「令和3年度環境報告書から見た市の環境施策に関する意見について」の審議をします。休憩を挟んで後半は、「環境基本計画等の課題と方向性について」の審議をします。ご協力をお願いします。皆様の忌憚のないご意見をお聞かせください。

## 2. 資料確認

事務局より配布資料の確認を行った。

## 3. 議題

(1) 令和3年度環境報告書(令和2年度実績報告)(案)に関する意見について

●事務局より資料6について、意見を受けて各ページの修正を行ったこと、説明を行った。

中西会長: 前回第2回の審議会で出た意見に加えて、メール等でお寄せいただいた意見に対する対応になります。これに対して質問、意見ございますか。

和田委員: ウェディングケーキモデルの掲載ありがとうございます。ウェディングケーキモデルの表記について、英語での表記は分かりにくく、他自治体も日本語に直していることから、日本語に直してもらったほうが市民には分かりやすいと思います。17の目標も日本語に変えた自治体が多いです。

中西会長: エコノミー等の表記を日本語にということでしょうか。確認ですが、この表を日本語に修正するにあたって許可等は不要でしょうか。

和田委員: 編集であれば大丈夫です。どこの市もやっています。

中西会長: そのように対応します。9ページの緑被率についてですが、みどり率平成20年度の26.7%というデータは東京都を基にしたデータでしょうか。

事務局: 全て東京都のデータを基に、国分寺市での数値を算定しています。東京都の測定方法が、平成25年度から変更されています。

中西会長: 測定の方法が変わって、それで精度が高まって26.7%から37.0%になったということですね。また、みどり率と国分寺市がもともと行っていた緑被率について、平成20年度は重複して記載しています。緑被率については、緑被地合計との欄でデータを見ればいいのか。

事務局: そのとおりです。

中西会長: 見比べると一緒ではないけど近い数字だということですね。

事務局: みどり率は公園も含んでいるため若干高めの数値が出ていますが、整合性は取れていると考えます。

中西会長: みどり率と緑被率の対象とする面積の相違点は表に記載されているとおりで、緑被率は公園、街路樹、河川等の水辺は含まれていないということですね。緑被率のほうが継続して行ってきたわけですが、今後は東京都にならってみどり率でモニタリングしていけそうということですね。そのほかはいかがでしょうか。

六車委員: 「これまでは緑被率を指標としていた」といった内容は記載がないようですが、今後はみどり率でデータを取得していく旨の文言があると分かりやすいのではないかと思います。また、平成25年度以降の数値に対して、平成20年度の算出方法は何かを書いたほうが分かりやすいと思います。

中西会長: 平成25年度以降は近赤外線を使用しているということですが、それより前はこういった手法で算出しているか分かりますか。

事務局: 航空写真を用いて調査を行っていました。

中西会長: 分かりました。その違いが分かると明確になりますので、そのように表記することといたします。

六車委員:平成 20 年度の緑被率が 25.8%で、みどり率が 26.7%について先ほどの重複している説明を8, 9ページに入れるほうがよいのではないかと思います。  
中西会長:事情を知らない市民はなぜ緑被率とみどり率の2つが書いてあるのかと思われると思います。みどり率を掲載した経緯について、8ページに説明を加えましょう。  
山岸委員:緑被率とみどり率の説明があったほうが良いと思います。また、先ほどの意見のとおり調査方法が変わっていることを記載いただきたいです。

(2) 令和3年度環境報告書からみた、市の環境施策に関する意見について

●事務局より資料7報告書について説明を行った。

中西会長:環境報告書に対する意見の(4)と市の環境施策についての(1)は、後半の議題の内容とかなり重複しているものになります。そのためこの後の議論を受けてさらに意見書に加えることもあるかと思いますが、ここでは市の環境施策の(2)について特に議論いただければと思います。ほかに記載すべき事項がないか、また環境家計簿は今回初めて取り上げたものでもあるので、環境家計簿の内容についてそのほかに記載すべきことがないかもご確認いただきたいと思います。

(4)次期環境基本計画策定で検討いただきたいことと、次ページ(1)施策の設定については、カテゴリーやタイトル全体は環境報告書でもなく市の個々の施策でもなく、もっと大きい環境マネジメントそのものだと思いますので、タイトルを市の環境基本計画を巡る仕組みとか、項目を一つ加えて、マネジメントシステムそのものについてということの方がしっくりくるかと思います。環境報告書に対する意見(1)(2)(3)については環境報告書に対する意見でいいと思います。そのように分けをしていただきたいと思います。

それでは個々の環境施策について、ご意見をお願いします。

山岸委員:公共施設の屋上緑化、壁面緑化、校庭の芝生化が環境基本計画で取り上げられていましたが、新庁舎建設に向けて屋上緑化を進めてほしいと思うので、取り上げてみてはどうかと思います。

中西会長:最近では屋上緑化だけでなく壁面緑化も取り上げられているようですね。費用はかかるようですが、民間会社も取り入れているようです。

和田委員:言葉についてですが、「PDCA を有効に機能させ」というとワンウェイになってしまいます。重要なのは PDCA サイクルをつくることだと思いますので、サイクルという言葉を入れたほうが良いと思います。また、環境家計簿の中で「現状の紙(Excel ファイル)を使用した報告にとどまらず」という表現ではなく「紙媒体からデジタル化する」といった表現がふさわしいと思います。紙媒体にとどまらず電子データ化することによってアプリの導入も可能になりますし、国もデジタル化という言葉を使っているのでその方が良いかと思います。

中西会長:「紙媒体を使用した報告にとどまらず、電子データから」というように書き直したいと思いますが。スマホ等からも入力閲覧ができるように方向に考えるようにしたいという趣旨が伝われば良いかと思います。

事務局:現状でもメールで Excel ファイルデータを提出してもらっており、電子データの提出を受け付けています。表記については修正させていただきます。

六車委員:環境家計簿を取り上げるのは今回が初めてとのことですが、こういう取組を周知して参加してもらうのは良いことだと思いますが、その結果をどう使うかというところまで書かないと次に繋がらないと思います。国分寺まつり等で結果や参加者の感想等をパネル展示するなど、その手法を記載したほうが良いと思います。

事務局:現状はホームページで個人名を伏せて公表しています。

中西会長:ホームページにおける情報発信も大事だとは思いますが、ホームページは見ない方もいるので、イベント等も活用しながら情報発信をしたほうが良いということですね。

六車委員:そうです。ほかにも市役所で企画展を開催するなど、市民に周知する機会があることを書いたほうが良いかと思います。

- 中西会長:内容としては、アプリの導入をするだけでなく、さらに啓発に繋がるような発信といったことですので、付け加えたいと思います。
- 和田委員:表彰やメッセージ等報告の後に何かあるとやる気につながると思います。
- 事務局:参加者の方には、結果と併せて参加者の感想や取組事例をまとめたものを参加賞と一緒にお送りしています。
- 和田委員:そのようなことに取り組まれているならせつかなので記載したほうがよいと思います。
- 中西会長:参加していない人にも参加したいと思ってもらえるようにできたらいいと思います。
- 六車委員:市報に募集だけでなく結果報告の記事を書いてみてはいかがでしょう。
- 事務局:市報はお知らせや募集が優先されるため、現状、結果報告の記事を掲載することは難しい状況です。
- 六車委員:大事なことだと思うので、イベント欄等に入れてほしいと思います。
- 中西会長:市報は情報発信の重要な場であり、環境のコラムのような形で掲載できるといいなと思います。電子媒体より目に留まる可能性があるのですがどうかできないでしょうか。
- 事務局:情報発信として市報に掲載したいという希望は当課だけではなく、多くの課で持っていると思いますが、希望どおりにはならないのが現状です。
- 佐藤副会長:野川のことが触れられていないのですが、先日約17,000件の署名を集め、都議会、市議会に提出されています。野川について積極的に市民と協働した活動を展開してほしいということを入れていただきたいです。環境ひろばにおける議論では、野川は環境基本計画の中で最大の課題点であるとしています。
- 中西会長:野川の問題については、自然再生化ということですが、意見書には昨年度まで記載していました。野川は他市では自然の形に戻っていますが、国分寺市ではまだ行われておりませんので、長らく自然再生化の要望を行ってきたところです。ただ、東京都の管轄ですので、東京都に動くよう働きかけを行っていますが進んでいないのが現状ですね。
- 六車委員:自然再生化するための土地の確保等はされているのでしょうか。
- 山岸委員:現状、住宅が川に迫ってある状況のため費用はかかると思います。
- 佐藤副会長:自然再生化の計画はあります。
- 和田委員:東京都の管轄になるため、市としてはここに明記するのは難しいのではないかと思います。三面であるということは河床も固定していることになるので、氾濫する危険性がある区間になります。
- 佐藤副会長:一級河川である野川では時間降水量 50 ミリについての対応はできていて、最近の観測では、治水上問題ない河川になっています。そのため、野川流域全域の中での改修としては、治水という観点では優先度は非常に低く、東京都はなかなか事業に動いていない状況です。しかし、この野川を緑と水の視点で市のまちづくりに活かしていくべきだということは昔から言われており、東京都に事業の申し入れを行っている状況にあります。
- 和田委員:そういうことであれば近隣市と協調して流域として一体性を持った整備の必要があるのではないのでしょうか。
- 佐藤副会長:そうだと思いますが、優先順位付けが治水のみのため、後回しにされています。
- 山岸委員:治水という観点ではなく、親水公園とう環境整備という位置づけで東京都に働きかけを行うといったところだと思います。今は新型コロナウイルス感染症やオリンピックの影響で財政が厳しい中、新たな公共事業に手を付けるというのは逆に指摘が出てくるかもしれないですね。将来的な事業化を目指して地道に働きかけていくしかないのではないのでしょうか。
- 佐藤副会長:そういったところで継続的に働きかけていく必要があるとして、市民と一緒に東京都に働きかけを続けるといったことにしたほうがよいかなと思います。
- 中西会長:継続的な活動の必要性がある事項として意見書にも記載するということといたします。流域全体で一緒に働きかけましょうということを強調した内容で意見書に書ければと思います。
- 野澤委員:環境家計簿について、国分寺市が目指す数値目標と照らし合わせた時に、大体何世帯に参加してもらえれば目標が達成できるのか明確になるとよいかなと思います。カーボン

ニュートラルを宣言することも考えつつ、削減目標に到達するためにどれくらいの市民が参加することが目標なのか立てるべきだと思います。

中西会長:現状で目標値というものはあるのでしょうか。

事務局:特段、目標値は設定しておりません。意識啓発が一番の目的になるため、自分の電気使用量を把握することで省エネに関心をもってもらい、環境配慮行動につなげていただくこととしています。

中西会長:参加することで目標値が達成するといった意識があるとアクションが出やすくなり、今後効果的な普及啓発になるよう目標値設定することで機運が高まることになるかと思います。

六車委員:電力であれば、世帯人数に応じた月使用量目安を電力会社等が示しているのです、そういったものを各家庭での削減目標として使用することで、意識を変えていけるのではないかと思います。

中西会長:今後の意識啓発のために工夫をしていきたいと思います。

野澤委員:市の具体的な削減目標がないというのはどうなのかなと思います。カーボンニュートラルを宣言する自治体も増える中で、今後急ぎ議論し、数値設定する必要があるかだと思います。

事務局:国分寺市も2月18日にゼロカーボンシティ宣言を行い、2050年までの温室効果ガス実質ゼロを目標に掲げております。次年度から2か年かけて市域全体の温室効果ガスの削減に関する計画を策定するよう考えております。そういった中で環境家計簿も施策として目標数値に結び付けることも考えられるのではないかと思います。

中西会長:表明したということも踏まえて、それらのことを意見書の中に入れてたいと思います。

藤井委員:市の施策について(1)の表現について、「発生することも考えられます。」という受身の表現ではなく、カーボンニュートラルやデジタルトランスフォーメーションなど問題が山積していることは審議会として認識していることをここで表記したほうが良いと思います。

中西会長:問題が発生することは当然考えられるということですね。これは後半でも議論したいと思います。

六車委員:環境報告書に対する意見(1)に関連して、資料6-1の154ページの下の方の横長のグラフについて、「家族と一緒に過ごす時間をもちたいかどうか」と「家族と過ごす時間の変化」というのは逆ではないでしょうか。また、グラフが3つ掲載されていますが、こんなに多くのグラフを書くというのはどこかで検討したのでしょうか。全国及び東京圏のテレワークの推移とか、国分寺市の環境報告書に載せる内容になっているのかどうか、検討されたのかを確認したいです。

事務局:グラフのタイトルは誤っておりますので修正させていただきます。テレワークの推移に関するグラフは前段の文章を説明するために掲載しているものになります。市ではこういった調査をしていないので参考としました。

中西会長:生物多様性のグラフは何の関連性がありますか。

事務局:「新型コロナウイルス感染症がもたらしたワーク・ライフスタイルの変化が生活行動意識にも変化を与えている」という文章について、感染症を契機として家、地域にいる時間が増えたことで、地域の環境について考え方が変わったというアンケート結果を参考数値として用いています。

六車委員:ごみの量の変化は関連する記載がありますか。

事務局:14ページの「ごみの発生抑制、減量化・資源化の推進」の文章の中で、「主な要因としては、新型コロナウイルス感染症による外出自粛が影響している」と記載しています。

六車委員:国分寺市の電気使用量について、どこかに参照ページありますか。

事務局:データがなく参考ページは書けませんでした。

六車委員:どちらかというとそのデータがあったほうがわかりやすかったかなと思います。

中西会長:データがあればということですね。

六車委員:51ページの車両走行距離の減少についてはあるのですね。

事務局:車両走行距離はありますが、電気使用量については現状、お示しできません。

藤井委員:インターネット都政モニターアンケートについて、質問項目の記載がないので入れてください。「その他」、「特に変化なし」、というのは感染症が広まる前と比較してなのかということがわかりません。

中西会長:グラフについてはこんなに詰め込む必要はなく、テレワーク活動の推移だけ少し大きくして入れるなど、あくまで他の文書の参考になるデータを1つ2つで良いかと思えます。

事務局:掲載するデータについては選別いたします。

(10分休憩)

(3) 環境基本計画等の課題と方向性について

●各委員より資料8報告書の意見について説明を行った。

中西会長:各委員の意見は大きく分けて環境報告書の6ページ、マネジメントシステムのCの部分に対する役割の考え方と、Pの部分のあり方、仕組みそのものに対する意見ということになるかと思えます。PDCAサイクルに大きく踏み込む形になるかと思えます。特に役割に対して意見が多かったところですので、もう少し有効的にサイクルとして機能するためにはどのようにすればいいか考えはありますか。環境審議会については、市全体の施策の実績や課題点を踏まえ、解決策を導いていないので、そこに取り組むべきかと考えます。

和田委員:そうなると3回の開催では収まらないかと思えます。東京都では毎月行っている会議になります。検討機関と結果の公表について考えるグループと、それぞれで3回は必要になるのではないかと思えます。

中西会長:それぞれ最低3回は必要ということですね。表現についても意見が多いところですが、審議会の中でどこまで検討するか、報告書の校正等、点検をするのが審議会の役割なのかというのは確かに疑問であるところです。

六車委員:PDCAが回っているか確認し、回っていないければその理由を意見するのが環境審議会の役割だと考えます。誤植等を指摘する場ではないと思えます。環境推進管理委員会が施策の実績の点検評価の中に環境報告書としてできたものの点検を含むという形がいいかと思えます。

中西会長:環境推進管理委員会の中で報告書全体の点検やってもらうという考え方ですね。

佐藤副会長:私は環境推進管理委員会の経験もあるのですが、施策の実績についてチェックすることはできますが、具体的に市民にどう報告するかは委員会では考えていません。経験上どう報告するかは審議会において検討するという役割分担となっています。一方、条例では審議会は環境問題全般に対しての意見を述べる場としています。現状は市全体の環境問題を扱う場と個々の施策について扱う場という形で分かれています。今後は合体することが必要ではないでしょうか。市全体的な環境問題とどう個々の施策と絡めていくかが重要かと思えます。

中西会長:環境全体の話と個々の施策の実績の2つに分けた場合ということですね。

和田委員:問題、課題、解決策はセットです。解決策は施策のことで、問題と課題は審議会でも取り扱い、解決策を委員会で取り扱うというのも一つの考えだと思えますが、関連性があるため全く関わらないというのは委員会で検討するに当たって難しいと思えます。

佐藤副会長:連絡会とか部会を別途設けるべきだと思えます。それぞれの会議体の委員が入って議論する場が必要だと思えます。

中西会長:そのくらいやらないと有効な課題解決のための施策につながるPDCAにはならないかもしれないですね。なんの組織をつくるかということからではなく、本来は環境の問題や課題に対してどう解決していくか、それに対する施策は何かということ考えた上で、それうまくPDCAサイクルにのせるにはどのような組織が必要か、後から組織がついてくるのだと思えます。国分寺の環境をどう良くするかが基本であり、そのために必要なプロセスをど

のような仕組みで回していくかを議論すべきだと思います。この第三次計画に移る段階で大きな変化かもしれませんが、次のサイクルで同じことを繰り返すよりは、新しい仕組みをつくったほうがよいと思います。

この議論には時間を要するため、資料8の意見 No.6にもある、早期に議論をスタートしてほしいというところを意見書に記載した上で、来年度は4回まで審議会を開催できるように、令和5年度予算を作成する10月までの期間に最低2回は議論の場を行い、後半の2回くらいを例年とおりの内容としたらいかがでしょうか。皆さんのスケジュールも前倒しとなりますが、賛同を得られましたら、それを踏まえて意見書に記載したいと思います。令和7年度から新しい環境基本計画の計画期間となりますので、令和4、5年度でじっくりと取り組みたいと思います。

六車委員:環境家計簿のような取組が報告書にのっていた際、問題の解決策になっているのかどうか審議をするのは審議会だと思います。チェックを行うのは審議会であって、環境報告書ができた時点での点検をするのではないと思います。施策の実績報告までが実施であるDにあたり、そこでできた環境報告書について環境推進管理委員会で全般見てもらって、できたものが有効にPDCAとして回っているかを判断するのは審議会の役割だと位置づけられるのではないかと思います。

中西会長:それを含めて庁内調整もあるかと思しますので、来年度早めに取り組みたいと思います。

山岸委員:市長の諮問に応じて審議会を行うわけですから、諮問のあり方についても見直しを行えばよいかと思います。

佐藤副会長:行政のプロセスとして諮問を出していただかないと動けないのではないかと思います。

事務局:建議として出していただき、さらに、意見を求める際は市長から諮問を出すということになります。

中西会長:マネジメントシステムについて、次期環境基本計画で策定いただきたいことに続いて、来年度の環境審議会を例年より早くスタートするというのを加えたいと思います。意見書については、私と佐藤副会長に一任していただき、今日出していただいた意見を反映いたします。

#### 4. その他

事務局:本日もちまして令和3年度の審議会が終了となります。令和4年度は例年の内容に加え、ゼロカーボンの推進について、また本日審議いただきました環境基本計画等の課題と方向性の件を含め、4回の開催を予定しています。開催は正副会長と調整させていただき、決まりましたらご連絡させていただきます。

#### 5. 閉会

中西会長:第3回環境審議会を閉会いたします。本日はお疲れ様でした。